

知事記者会見の概要

日 時：令和8年10月16日（金）10:00～10:40

場 所：502会議室

出席記者：13名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 令和8年度新規就農者動向調査の結果について

代表質問

- (1) J R 米坂線の復旧について

フリー質問

- (1) 代表質問に関連して
- (2) ㈱アルカディアへの不正アクセスに係る本県への影響について
- (3) 旧水産研究所職員の死亡事故に関する調査結果の公表について

<幹事社：朝日・朝日・朝日・NHK>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

朝と昼の温度差が大変大きい日が続いております。体調管理にはくれぐれもご注意くださいと思います。

最初に、インフルエンザの状況について申し上げます。

昨日 10 月 15 日に公表した本県の定点医療機関からのインフルエンザ患者報告数が 1 定点当たり 10.13 となりました。注意報レベルである 10 以上の感染者数となりました。

注意報レベルに達した時期としては、1999 年の統計開始以降で最も早い時期となります。

地域別では、山形市を除く村山地域で 15.20 と最も高くなっています。

全国を見ますと、15 の都県で注意報レベル、1 つの県で警報レベルとなっている状況で、この 1 つの県はどこだと調べてみましたら沖縄県でしたけれども、警報レベルとなっている状況で、全国的に流行の拡大が見られています。

今シーズンは例年より早く注意報レベルに達しております。これからさらに感染の拡大も予想されます。

県では、昨日 10 月 15 日にインフルエンザの流行が注意報レベルに達したことを発表し、感染予防を呼びかけているところです。

県内に住んでおられる皆様には、基本的な感染対策として、こまめな手洗いや換気、マスクの着用を含む咳エチケットを心掛けていただきますようお願いいたします。

次は、ツキノワグマに関する注意喚起について申し上げます。

秋を迎え、キノコ採りや行楽などで山に入る機会が増える時期となりましたが、冬眠に備えたクマがエサを探して、活発に活動するため、最も目撃情報が多く、クマと遭遇する危険性が高まる時期でもあります。

特にクマによる人身被害の発生が最も多いのが秋のキノコ採りです。一人で入山せず、十分な警戒と備えが必要です。また、今年はブナの実が豊作との報告もありますが、油断せず市街地出没防止に向けた対策が必要であります。

県民の皆様には、改めて、キノコ採りなどで山に入る際には、クマ鈴などの音が出るものを携行するほか、ヘルメットなどを装備すること、なるべく複数人で行動すること、目撃情報があったところでの早朝や夜間は特に注意することなど、お一人お一人が身を守る行動をとっていただきますようお願いいたします。

また、屋外に生ゴミなどを放置しないこと、不要な果樹は伐採することなど、市街地出没防止のための対策も併せてお願いいたします。

☆発表事項

知事

ここで発表が1点あります。

令和8年度の新規就農者動向調査の結果をとりまとめましたので、お知らせいたします。お手元に資料を配付しておりますので、併せてご覧ください。

令和8年度の新規就農者は421人で昨年度を16人上回り、調査を開始した昭和60年以降最多となりました。また、11年連続で東北一となりました。

県では以前から、関係機関・団体・市町村と連携して、就農の動機付けから定着までの各段階に応じたきめ細かい支援を行ってきたところであり、大変喜ばしいことだと思っております。

農業従事者が年間1,800人減少している中であって、新規就農者数はまだまだ足りない状況であります。今後ともより多くの人に就農してもらえよう、引き続き関係機関と一緒に頑張っていききたいと考えております。

なお、詳細につきましては、後ほど農林水産部から説明をいたします。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

幹事社、朝日新聞、斎藤です。よろしくお願いします。

JR 米坂線の復旧について4点質問させていただきます。

まず1点目ですけれども、知事は昨年（2025年）の定例記者会見等で「負担は大変大きい」「当初から鉄道での復旧を申し上げており、バス転換は目指していない」等と発言をされていまして。県のホームページでも「利用者が少ない中で多額の費用をかけて鉄道として復旧するよりもバス転換の方がよいと思う」との県民からの意見に対し、県の回答として「災害で被災したものであり、鉄道として復旧することが基本と考える」と回答されています。この考えについて、知事は現時点でもお変わらないのでしょうか。また、こうしたお考えから現在は考えが変わったとすれば、それはどういう理由によるもののでしょうか。よろしくお願いします。

知事

米坂線につきましては、令和4年8月の豪雨災害により被災した路線であります。それで、まずは、**JR 東日本**の責任において鉄道による復旧が行われることが前提だというふうに申し上げてまいりました。

しかしながら、**JR**は**JR**単独での鉄道復旧は難しいというふうに言われまして、これまでに**JR**米坂線復旧検討会議などにおきまして、上下分離や、地域が運営する鉄道、それから

バス転換といったことについて議論を重ねてきたところであります。

現在、今後の復旧に関する沿線自治体の意見集約を進めており、来週 20 日には沿線自治体首長会議を開催いたしますので、沿線自治体の意向を十分尊重しながら、早期復旧に向けて議論を前に進めてまいりたいと考えております。

記者

ありがとうございます。

2 点目ですけれども、この米坂線の復旧をめぐつては、今般、新潟県側の自治体が相次いでバス転換を容認する意向の発言を議会等で表明し、新潟県知事も沿線自治体の意向を尊重して協議を進めるとしています。こうした新潟県側の意向に関して、知事は 9 月 30 日、コメントを発出されています。新潟県知事の考えについては「私としても同じ認識」としたうえで「米坂線は一本の路線」というふうに言及されました。「一本の路線」であるからどうすべきであるというお考えなのでしょうか。一本の路線である以上、新潟県側がバス転換を容認すれば、なし崩し的に山形県側も受け入れざるを得ないということなのか、それとも、一本の路線としてつながっているからこそ、鉄道として全線復旧すべきということなのか、あるいは別のお考えがあるのか、お尋ねしたいと思います。

知事

米坂線の復旧につきましては、沿線自治体の意向を尊重するということが重要であり、これは、新潟県とも共通の認識であります。

このような中、新潟県側の沿線自治体はバスを有力な選択肢として協議を進めていく方向にあるようだとお聞きをしておりますが、山形県側の状況を見ますと、新潟県側と比べて利用者が多い、そして区間も長い。さらに、今泉一米沢間は鉄道による運行が現在も続いているといったことなど、事情が異なっております。鉄道による復旧に対する地域の思いが強いというふうに感じてまいりました。

このような事情の違いはありますが、米坂線は米沢から坂町まで一本の路線であります。山形県側から新潟県側への利用や、その逆の利用もありますので、新潟県側とコミュニケーションを図りながら、議論を前に進めてまいりたいと考えております。

別々にというよりはやはり、米坂線という一本の路線として一緒に進めていければというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。

3 点目ですけれども、米坂線の復旧のあり方については、沿線住民はもちろん、両県の県民も大きく注目しています。それだけに、方針を決めるに際しては大きな責任を伴い、場合によっては苦渋の決断となる場合もあり得ます。そのような局面だからこそ、地元自治体の首

長が何らかの意見を表明するのを待つよりも、県が主導して JR 東日本と協議を進めるべきではないかという意見が、県内政財界から聞こえてきます。「早急に具体的な協議を進めていく」と言うことであれば、県が先頭に立って交渉の場を整えるのが筋かと思いますが、これに関して知事のお考えをお聞かせください。

知事

県では、これまで沿線自治体とともに、米坂線復旧検討会議において、復旧に向けた検討を重ねるとともに、JR 東日本に対して復旧後の具体的な関与を明らかにするよう求めてまいりましたが、JR 東日本からは、未だ具体的な関与ということは示されておられません。

また、政府の施策等に対する提案活動や新潟・福島・山形 3 県知事会議などの機会をとらえて、政府に対し、早期復旧に向けた財政支援の拡充を要望するなどの取組みも行ってきたところであります。

一方で、米坂線は被災から 4 年が経過しておりますので、早期に復旧をしたいという考えは、県も沿線自治体も同じであるというふうに思います。

復旧のあり方につきましては、地域の将来にも影響する大きな問題でありますので、納得のいく結論が出せるよう可能な限りの努力を尽くす必要があると考えております。

県としましては、前回の復旧検討会議以降の動きをあらためて沿線自治体と共有をし、現状を踏まえた今後の進め方について意見交換を行うため、10 月 20 日に米坂線復旧に係る沿線自治体首長会議を開催することといたしました。

繰り返しになりますが、沿線自治体の意向を十分尊重することが重要でありますので、県としましては、沿線自治体の皆様と意見交換を行い、一日も早い復旧に向けて、議論を前に進めていきたいというふうに考えております。

記者

ありがとうございます。

最後 4 点目です。JR 東日本はじめ JR 各社は、利用者が減って赤字になっている全国の地方路線を、災害を機に次々と廃線にしてきています。営利を追求する民間企業としては当然の措置と言える一方、この論理がまかり通れば、人口が少ない地方に住む人たちは不便を受け入れなければならない、ますます地方から人が減っていくということになりかねません。

人口減少が進む中でどう公共交通を維持していったらよいとお考えでしょうか。また、骨太の方針 2026 で「交通空白の解消」を掲げ、ローカル鉄道の再構築や鉄道ネットワークの財源確保を打ち出している政府に対しては、この問題に対してどのように取り組むべきとお考えでしょうか。

知事

地方路線というのは、学生の通学ですとか、高齢者の買い物など、住民の日常生活の移動

手段として、また、観光やビジネスといった地域経済活動を支えるアクセス手段として、重要な役割を担っていると認識をしております。

地方路線を維持していくためには、利用促進や二次交通の充実、観光需要の創出などが重要であり、沿線自治体や JR を含めた関係機関と連携しながら、地域としてできることにしっかりと取り組んでいく必要があると思います。

一方で、JR は民間企業ではありますが、公共交通を担う主体として社会的役割を果たすべき立場にもあると考えております。

全国知事会でも「JR 各社の地方路線の果たす役割が引き続き堅持されるよう、政府の責任において同社に対する指導を行う」よう要望しているところであり、JR 東日本には、これまでの経緯や地域の声をしっかりと受け止め、地方路線の維持に努めていただきたいと考えております。

また、地方路線の維持につきましても、政府に働きかけを行ってきたところでありまして、4 月に開催された有識者検討会において、「維持すべき基幹的ネットワーク」について引き続き検討することとされたところであります。

特に地方における公共交通の維持には、地方路線の存在が大きいものでありますので、政府には、広域的な地域間の移動を支える地方路線を「維持すべき基幹的ネットワーク」として位置づけたうえで、このような路線を継続的に支えるための支援を実施するとともに、そのために必要な財源の確保にも取り組んでいただきたいというふうに思っております。

☆フリー質問

記者

山形新聞、稲村です。おはようございます。

今の米坂線の質問に関連してお聞きできればと思うんですが、今、知事のお話にもあったように、この 20 日の日に県と自治体の沿線市町村首長の会議がありますけれども、やはりここである程度、一定の方向性をこの場で出したいというようなお考え、お気持ちなどはありますでしょうか。

知事

これまでも沿線自治体から意見を伺ってきたところではありますが、この度、沿線自治体の首長の皆様が一堂に会して、これは前に令和 7 年の 1 月に 1 回目を開催しているんですけども、今回は 2 回目ということであります。一堂に会して今後の進め方について意見交換を行うため、沿線自治体首長会議を開催することといたしました。

会議では、前回の復旧検討会議以降の動きを改めて沿線自治体と共有するとともに、現状を踏まえた今後の進め方について意見がまとまればというふうに思っているところであります。

やはり、何回も個別にお伺いをしたりもしてきましたし、これまでのいろいろな経緯や動きを改めて共有をし、そして、現状を踏まえたくて今後どういうふうにしていくかということを、一堂に会した中で、お聞きできればというふうに思っています。

大変大きい問題でありますので、必ずそこで方向性が決まるかどうかというのは私にもちょっと、今のところそういうふうになるかどうかまでは分かりませんが、ただ、できるだけ丁寧に検討を進めてきたわけでありますので、その結果、どういうふうなお考えになっているかということを一堂に首長さんが会した中で、それぞれの首長さんがご発言されると思いますので、そのことをしっかり尊重して、前に進めていきたいというふうに思っています。

記者

NHKの内藤です。

米坂線の関係なんですけれども、先ほどもあったように新潟県の関川村ですとか、村上市がバス転換を容認する方針を示しているというのがあります。

山形県側では先ほど知事もおっしゃったように、新潟県とは事情が違って、鉄道による復旧についての地域の思いが強いということがあるかと思えますけれども、そうすると、これから意見集約を行っていく中で、新潟県と山形県で、もしかしたら復旧の方法が異なるやり方もありなんじゃないか、みたいなふうな意見が仮に出てきたとしたら、そういうのもやむを得ないというふうに考えていらっしゃるのか、それともやっぱり「一本の路線」だから新潟県側と同じ方法で復旧しなければならない、というふうに考えていらっしゃるのか、そこは知事はどうなんでしょうか。

知事

そこは予断を持って私が申し上げるところではないというふうに思っています。

新潟県側は、ある程度方向性が定まりつつあるということが分かってきたわけなんですけれども、今記者さんがおっしゃったように、やはり鉄路に対する愛着が山形県側のほうが相当強い。地域の方々も同じ思いだと思いますけれども、そういった中だからこそやはり丁寧に今まで検討を進めてきたわけであります。水面下でもいろいろお話し合いをしたりして、そのように進めてきたわけなのでありますけれども、山形県側で沿線自治体の思いを、考えを尊重するというふうに申し上げてきたし、それは変わりませんので、どういった方向性になるのか、そこはやはり県としても尊重していかなければいけないというふうに思っています。

違う方向になるのか同じ方向になるのか本当に分かりませんので、そこは尊重していきたいと思えますし、もしという言葉はあまり使いたくないですけど、やはり山形県側の沿線自治体のお考えをしっかりお聞きした上で、その上での山形県と新潟県との話し合いにな

るかというふうに思っています。

やはり米坂線は一本の路線だというようなことなので、両方鉄道ということであれば同じ考えでありますけれども、こっち側がバスでこっち側が鉄道だったらどうなるのかとか、いろいろなシュミレーション、というのはおかしいですけど、考えはできるかと思うんですけれども、まずこの会議でどういうふうになるのかということに重きを置いてお聞きをしていきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。あともう一点、米坂線の、今年4月に行われた第7回の復旧検討会議の中で、バス転換した場合に利便性が向上するか確認するための試験運行の実施を検討するということが確認されているかと思うんですが、この試験運行については、やはり知事は今も実施すべきだというふうに考えていらっしゃるのかということと、山形県側の復旧方針を決める前にその試験運行というのはやるべきだというふうに思われていらっしゃるのか伺えればと思います。

知事

試験運行をしてみてもどうかという意見が出てきたかと思いますが、それをできればやることに越したことはないと思うのでありますけれども、必ずやらなければならないのかとか、この検討会議をこれからやりますので、そういったこともまな板に乗ってくるのかなというふうに思います。私が予断を持って「した方がいい」とか「しない方がいい」とか現時点で申し上げることはできないところであります。

記者

Y T S の荒木と申します。私も米坂線関連で、先ほどの山形新聞社さんの質問と重複する部分もあるかと思うんですが、今回新潟側がそういったバス転換の動きというのは、関川村の村長などは4年という時間が経過して、遅々として進まないというところで、前に進めなければいけないということで今回バス転換を容認するような考えに至ったという発言をされています。先ほど知事から来週の方で方向性が決まるかどうかかわからないけれどもというお話があったんですが、この4年が経過して改めて今回こういった会議を開くという中で、知事個人としてはこの会議をもってある程度の意見集約と方向性を決めたいというか、出ればという期待感があるのか、知事個人としては進めたいという、山形側としても前に進めたいというお考えがあるのか、改めてお聞かせください。

知事

4年が経過して、なるべく早く復旧を前に進めたいという思いは新潟県と山形県も同じでありますし、沿線自治体の皆様も同じ思いだというふうに思いますので、その思いは同じで

す。

ただ、先ほどから申し上げておりますように、新潟県側と山形県側でいろいろな事情が違って、その思いというのが、私はかなり強い、だからこそ今までいろいろと、話し合いも何度もしてきたし、この方式だとＪＲはどういうふうな関与をしてくれるんだとか、ＪＲにもいろいろな質問をしたり、鉄路で行くとするとかかなりの財政的な負担になるのもわかってますので、その財政支援といったことについても政府のほうにも要請をしたり、いろんなことをやってきたわけなんですね。といったことで現在に至るんですけども、今回の首長が一堂に会して検討する会議で、必ずそこでその方向性を示さなければならないというほどのものではないというふうに私は思っています。

やはり、最初の思いはもちろんありましたし、その後のいろんなその積み重ね、それぞれの首長さんも、動いたり、また要望活動をしたりということでこれまで歩んできたというふうに思いますので、そういったことも含めてどういう思いを持っておられるのかということと改めてお聞きをして、一堂に会した中でそれぞれのお考えをお聞きして、前に進めていくべくさらに検討を積み重ねることになると思いますので、事情が違っていったというようなこと、実際今はもう違ってしますので、そういったこともありながらも前に進めていかなければならないということはありますので、両方の視点を持って、できる限り沿線自治体の皆さんの思いというものを尊重しながら進めていきたいというふうに思っています。

記者

さくらんぼテレビの柿崎です。よろしくお願いします。米坂線とは別なんですけれども、先日、自治体向けに防災情報を配信する㈱アルカディアが不正アクセスを受けて、個人情報流出する事態となりました。県内の自治体でも「㈱アルカディアのシステムを利用して情報流出した可能性があります」という発表をしている自治体もございます。

また、医療機関向けにシステムを配信している㈱メドレーも不正アクセスを受けて、800近い医療機関で情報流出の恐れがあるという事態が立て続けて起きていますけれども、知事としての受止めと、あと県としての対策または呼びかけなどあれば教えていただけますでしょうか。

知事

まず現状と言いますか、分かっていることを申し上げたいと思います。

県では、県の独自システムで対応しておりまして、㈱アルカディアとの契約を締結しておりませんので、今回の事案による影響は県にはありません。

一方で、県内の市町村及び消防本部への影響について確認をしましたところ、9つの市町村及び6つの消防本部におきまして同社の配信サービスなどを利用しており、当該サービスの停止や個人情報が漏洩した可能性があるというふうに伺っております。

該当する市町村及び消防本部につきましては、この状況について住民の皆様に周知するとともに、防災情報などの伝達に支障が生じないよう対処しておりましたが、昨日、アルカディアのほうですべてのサービスが完全に復旧し、安全にシステムを利用できる状況になった旨を公表したということでもありますので、そのことを受け、随時、同社の配信サービスの利用を再開しているということでもあります。

私から申し上げたいことは、やはり県民の皆様には心配なことや不審なメールが届いた場合には、お住まいの市町村にお問い合わせくださるようお願いしたいというふうに思っています。

記者

読売新聞の竹田です。米坂線の問題に戻ってしまうんですけれども、改めてその 20 日の会議に関するお考えのほうを確認させていただきたいんですけれども、最初の、確か山形新聞社さんのご質問の中では、20 日に意見がまとまればというようなご発言があったかと思うんですが、先ほどの質問だと必ずしも決める必要はないとか、一方で前に進めたいという思いもおっしゃっていたかと思うんですけれども、改めて、その結果はどうなるかは別として、知事としてはその 20 日の会議である程度その意見がまとまればいいなという思いを持っていらっしゃるのかどうかという、そのあたりのお考えをお聞かせいただけますでしょうか。

知事

その会議の内容が、どういうふうになるかという、そのことをしっかり把握していきたいと思っていますので、どうなってほしいとか、こうすべきだとか、そういった行動は私からは、予断を持って言うことは申し上げないことにしたいと思います。やはりありのままに、思いのままに、そこで沿線自治体の首長の皆様のお考えを述べていただきたいというふうに思っています。それがやっぱり大事なことだと思っています。

これまでもいろいろ話し合いはしてきましたけれども、そういったことも踏まえて、またそれ以外のいろいろなところでいろいろな働きかけをしてきた、そういったこともみな含めてですね、その場でこれまでの経緯を共有すると思います、新潟県のことも含めて。そしてどういうお考えになっているかということをお聞きするという場でもありますので、前に進めたいというのは私も皆さんもみな同じでありますので、そこをさらに、早くしてくれというようなことは申し上げないと思います。現時点で申し上げます。

記者

NHK の伊藤と申します。私からは、去年発生した県水産研究所の事故についてお話を伺

いたいと思っております。

安全管理をめぐる捜査も 1 年半経ちますが、まだ結果が出ないという中で、その後いろいろ県の調査も通していろいろ詳細も分かってきた部分があると伺っているんですが、その詳細の結果について、県としてはやっぱりその捜査の結果が出るまで発表しないというお考えだったかと思います。

このように結果がちょっと長引いている中で、どうして詳細を発表できないというふうにお考えなのかと、あと慰霊碑の完成も間近かと思うんですけども、そういうタイミングもある中でご遺族も強く求めていらっしゃると思いますが、そのお考えというか、その詳細をまだ発表しないという考えは変わらないのかお聞かせください。

知事

まず、事故に関しまして、改めてお亡くなりになられた五十嵐大将さんのご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、ご両親をはじめご遺族の皆様にお悔やみを申し上げます。

事故の詳しい経緯につきましては、県としましても事故発生当初から関係者の聞き取り調査を行ってきておりますけれども、現在も酒田海上保安部の捜査が続いている状況であります。

県における調査結果の公表ということにつきましては、酒田海上保安部による調査結果も踏まえる必要がありますので、それが判明次第、農林水産部による説明の機会を設けたいというふうに考えております。

やはり今、調査というのは本当に大事なところでありますので、海上保安部が客観的にしっかり調査をして公表される、そのことも踏まえての県の発表ということにしたいというふうに思っています。

記者

河北新報の渡辺と申します。よろしく願いいたします。

また米坂線に関連してなんですけれども、山形県側の市町村でも飯豊町の嵐町長がバス転換の選択肢を排除せずにほかの選択肢と比較するというような、バス転換に言及した発言なども出ているところかと思えます。改めて20日、市町村での意向というところを確認する場という側面が大きいと思うんですけども、もし意見といいますか、県内市町村の中でバス容認派と鉄路での復旧を求めていくところと意見が分かれたときに、県としてはどういった役割を果たしていくお考えなのかというところをお伺いできればと思います。

知事

先ほど来、申し上げているんですけども、どういった意見が出るか分かりませんので、やはりしっかりとお考えをお聞きするというのが第一の県の役割かと思っています。そし

てどういったご意見が出たかということについてしっかりと対処していく、前に進めていく、一緒に進めていくというふうに考えていますので、今から「ああだったら、こうだったら」ということはちょっと申し上げられないところです。

記者

ありがとうございます。先ほどから「前に進みたい」という発言を何度かされていると思うんですけども、これまで鉄路での復旧というところを求めてきて、事態としては検討というところは進んでいてもなかなか鉄路そのものは動いていないというようなところが現状としてあると思うんですけども、前に進めたいというのは、言ってみれば県内の意見を集約するということなのか、それとも新潟県側で見られるようにバスとしてでもコミュニティの維持というところで前に進みたいという意味なのか、この「前に進みたい」というのは知事としてはどういうお気持ちから来ている言葉なのか伺いたかったのですが。

知事

それは「米坂線の復旧」というのが、米沢から坂町までの路線の復旧で、ＪＲ側からは４つの方式というものを提案されていますので、そういったことについての、どの方式になるのかとか、あるいは県議会の議員の皆様方からＢＲＴ方式がいいんじゃないかというようなご提案もいただいておりますし、そういった諸々のことがありますので、あれかこれかということではなくて、本当に心から思っておられる、願っておられること、お考えになっておられることをおっしゃっていただいて、それを前に進めて意見を集約して、どんな意見が出るか分かりませんが、意見を集約して前に進めていくということだと思っています。

以上